

徳島県総合計画審議会計画推進評価部会 会議録

日時

平成17年8月2日(火) 13:30～15:00

会場

徳島プリンスホテル プリンセスルーム

出席者

【委員】10名中9名出席

後藤修三委員、藤本貴子委員、本田圭一委員、松崎美穂子委員
(専門委員)

石田和之委員、植田美恵子委員、大南信也委員、高畑富士子委員
中川桐子委員

【県】知事、企画総務部長、各部局次長、総合政策局長 ほか

会議次第

- 1 開会
- 2 議題
(1) オンリーワン徳島行動計画の平成16年度の進捗状況について
(2) その他
- 3 閉会

《配付資料》

- 1 総合計画審議会設置条例、計画推進評価部会設置規程、部会委員名簿
- 2 「オンリーワン徳島行動計画」の平成16年度の進捗状況について
- 3 「オンリーワン徳島行動計画」進捗状況一覧表
- 4 「オンリーワン徳島行動計画」の目標水準・数値目標達成状況一覧表について

議事録

- 1 開会
- 2 あいさつ
飯泉知事からあいさつ
- 3 議題
(1) オンリーワン徳島行動計画の平成16年度の進捗状況について
(2) その他
配付資料1から4に基づき、事務局から説明を行った。

4 意見交換

(委員)

評価に当たっては、数字の達成度だけでなく、質の面も重視されるものではないか。

資料4の達成度3(努力を要する)については、達成状況の説明だけでなく、その理由、原因の分析も入れていくといいのではないか。

また達成度1(達成)についても、達成できたで終わってしまうのではなく、さらにそれでどんな効果、結果を得られたという、もう一つ踏み込んだ説明があるとすごく分かりやすいのではないかと思う。

(知事)

達成度3については、行政として進める側にとっても理由、原因の分析は必要なことなので、今後そういった点を踏まえて別記の欄に入れていきたい。

また、達成度1についても、あまり言い過ぎると手前味噌になるが、達成できた「効果」も大いにPRをさせていただきたいと思う。

(委員)

県庁の色々な課がテーマを持っていると思うが、例えば「経済再生」という中で商工・労働政策課も4~5のテーマがあるが、(課の中で)全部の中の優先順位があって、それが達成度1, 2, 3という結果になって出てきたのか。

それとも、課の中で優先順位をつけ、今年はこれを達成するというようなものがあったのかどうか伺いたい。

(商工労働部)

基本目標2については、確かにたくさん掲載しているが、強いて優先順位ということではなく、当然全部やらなければいけないと考えて実施している。

(総合政策局)

県の政策評価については、基本的に事業ごとの評価であり、まだ施策全体の、事業群としての評価までできていない。恐らく、まだ今は、個別の事業の質のアップに重点を置いている段階だろうが、今後は同一目標の事業群のうち、ターゲットを絞って集中的に重点化していくことが、これから本当に必要な作業だと思っている。

(部会長)

農林の方は達成度3が多いですが、何か発言は？

(農林水産部)

達成度3が多いというご指摘ですが、各事業の取組の中で必ずしも全ての事業について順番をつけるというわけではない。

19「農業組合数」 20「森林組合数」については、組合独自でそれぞれが考えて、作り出していく合併ということもあり、なかなか進むのが難しい。

258「農業関連女性起業家数」については個人やグループの女性起業家を育てる支援をしているが、グループの方がなかなか数値が伸びていないという現状である。

(部会長)

非常に大きな一般的な施策と個別的な目標値との関係(例:中山間地域の適正化問題と認定農業者数)はどのようなふうに考えたらよいのか。

(農林水産部)

農林水産部全体の事業がこの「オンリーワン徳島行動計画」の中に入っているわけではないが、関連の施策については事業項目の中で目標を設定して入れているものの、こういう目標値を掲げる事業という形での整理ができていない部分もある。

(委員)

今までの農業施策は目に見えづらかったが、今のブランド戦略とか、「新鮮なとくとくしま号」トラック、「安²認証制度」の構築とか、目に見える政策は、農業者としては励みになる政策だったと思う。

ただ、それが農業関係者まで十分周知徹底されていないので、県下全域に周知するような方策も考えて欲しい。それから、こういう色んないい政策を、マスコミを通じて、県外にも広くアピールして欲しい。

(委員)

「達成」及び「順調」が9割近いところ、全体としては非常にいい数字である。

「オンリーワン徳島行動計画」によって徳島は変わったのかどうかという部分が一番大事だと思うが、まだ1年半も経っていないが、県民もある程度変化を感じられているのではないか。

(委員)

南部総合県民局の地域政策総合会議の委員をしているが、組織の改変というのは、人を変えらると思うし、一番大きく変わったと感じるポイントになるのではないか。

また、道の活動というものもしているが、道路整備も県南は遅れているので、広い土地をもっと有効に使えばいいと思う。

県が招いている病院事業管理者についてテレビ番組を見たが、看病する家族にとっては病院というのは医療技術だけでなく、勤める方の心を敏感に感じられる場なので、その先生の行動はすごく親身にテレビを通じて感じた。

(部会長)

徳島県がいろんな面で変わっていったということを委員の方々はおっしゃってるが、ヴォルティスとかインディゴソックスとかを見て、確かにエンターティメントの面では非常に変わってきたという意識がある。

(委員)

結果が出ている面をもっとPRしてという意見があったが、300もある施策を個別に一つひとつ評価するのではなく、重点施策の推進方向があると思うので、テーマごとにその評価を書きいただければ、分かりやすく、理解できるのではないか。

また、少子化問題については、子供を育てる環境にバックアップできるような、女

性が働きやすい職場づくりが重要なので、企業の啓発に県の力を貸していただきたい。

(委員)

教育委員会では個性豊かな教育の推進ということで、高校入試制度の改革を進めておられるが、実際には中卒生は、校舎の新しさ、冷房の完備、制服の格好良さとかの基準で高校を選んでいる。

高校側も個性はハードでなく、ソフトで勝負するという考え方に改めて欲しい。

そのソフト面で言えば、オンリーワンハイスクール事業は非常に面白い取組だが、どこで何をしているのか全部分かるような、情報の一元化を進めていく必要があるのではないか。

(教育委員会)

制服の問題等については、本当にそういう形で子供たちが高校を選ぶということはあってはならないと思っている。教育活動の中で特色を出して行って、それを子供たちに選んでもらうという、行ける学校でなくて行きたい学校を作っていくんだということで教育改革に取り組んでいるが、まだ十分浸透しきっていない。

今後、子供たちが教育内容の取組の特色を持って入ってきてもらえるような学校作りに取り組んでいきたいと考えており、その状況について、十分PRに努めたい。

また、こうした情報を一元化して、積極的にこちらから提供していく仕組みについても充実していきたい。

(部会長)

病院の件については、よい方向に向いているのか？

(病院局)

塩谷管理者の経営理念は、県立病院の経営改革、経営健全化というのは県立病院の基本理念の実現のためにやっているということである。

県民に支えられた病院として県民医療の最後の砦になるための改革であり、この実現のために全ての職員は頑張らなくてはいけない。

そういう観点から、積極的にいいことも悪いことも情報開示して、県民の皆さんにしっかり広報に努めていきたい。

(部会長)

医療に対する需要と供給が非常にずれてきているので、それをできるだけ柔軟に対応するような、そういう施策が必要なのではないかと思う。

(委員)

病院というのは、サービス過剰になることを求めているのではないが、必要最低限のサービスは必要であり、地元の個人病院との住み分けの中で、県立病院の位置という辺りも明確に広報、周知していただけたらと思う。

(委員)

数値目標自体がどの程度の妥当性があるのか、本当に必要な数値なのかどうか、あ

るいはそれが足りた数値であるのかという辺りが少しよく分からなかった。

単に数値的なものでなくて、性質というか中身が問題であると思う。

資料4の 10「とくしま県民活動プラザ」は達成度1となっているが、今年度になって非常に利用しづらくなった。

会議室も土曜日の夜9時まで使えていたのが6時までになり、印刷も夜9時までだったのが平日でも6時で終わりになった。職員も入れ替わりがあり、非常にモチベーションが下がっており、いわゆる役所か？といたくなる状況である。

29「県内木材の利用」については様々な具体的な施策をされているが、徳島のスギの良さやスギを使う理由とかをマスコミや広報等を通じてもっと広めて欲しい。

また、アスベストの問題であるが、「とくしまいい生活環境づくり」の中に、この項目なり、目標設定を再考して欲しい。

次に南海地震に関連して、自主防災組織の結成や災害弱者に対する要援護者支援マニュアルを作成しているが、これもどうやって広げていくかということが問題である。

耐震診断が進んでいない地域についてはできるだけPRをやっていただきたい。

また、それによる耐震改修についても、実績がかなり低いので、制度の周知やその必要性に対して行政から訴えかけていただきたい。(167、168)

最後に、ユニバーサルデザインを推進しようとする中で、「徳島県ひとにやさしいまちづくり条例」は中身が非常に古いので、今の動きに合った内容のものに改正して欲しい。(288)

(知事)

今回のオンリーワン行動計画のベースは元々、私が選挙に出たときのマニフェストの中の数値である。その数値目標については、全国の状況、その中における四国、徳島の状況から弾き出したものである。

例えば、地球温暖化防止ガスの10%は京都議定書の6%から考えると、もっと低い数字もあったが、徳島ですべての施策に環境の切り口をといるならば、ここは2桁で行こうかと考えだしたものである。

また、審議会の委員の皆さんからのご提言をいただく中で、今回の数値は作っているものの、確かにもう少し高い目標でもよかったのではないかという点もあるので、こういう形で政策評価をしていただく中で、進化する行動計画として、新しい行動目標をしっかりと作っていきたいと考えている。

(県民環境部)

県民活動プラザの利用者数については、16年度は3万を越えており、17年度もそれ相当の数字で推移していると思うが、職員については異動もあり、今後とも職員も努力するので、ご理解をお願いしたい。

また、利用時間の変更については、15,16年の実績を見て、費用対効果から3つの会議室のうち、2部屋だけを9時まで開けることとした。(火～金曜日)

(委員)

実は土曜日の晩というのは、NPO活動やボランティア活動をされている方が非常に集まりやすい時間で、3つある会議室がかなり埋まっているような状況だったのに、

土曜日の6時からが使えなくなった。

私の感覚では、みんながよく使っていた時間帯がなぜ使えなくなったのか疑問に思う。

(知事)

県民活動プラザは私が部長の時に開設したが、役所か？という話がでたが、そうならないために NPO 法人に運営をまかせてきたのであり、土曜日の夜が一番使っているという実態が反映されてないのでは何の意味もないので、そこは早急に対処をさせていただきたい。

(農林水産部)

「県内木材需要に占める県産木材の比率」については、森林の機能を維持・増進していくという観点から、本県の人工林の 73 %を占めるスギの利用を進めていくのは非常に重要だと思っている。

県民への普及活動についても各種イベントを含めて取り組んでいるが、ご指摘のとおり、もっと徳島の木の良さとか、需要拡大に向けての取組をしていかなければいけないと考えている。

ただ、「徳島スギ魅力向上推進事業」では新築やリフォーム時の貸し付けを実施しているが、応募状況が2倍になるなど、供給より需要が上回っている。

また、資料4の 31「公共土木工事での県産木材使用量」については、近年の公共工事予算の減少に伴い落ちてきているが、県庁内に全庁的組織である戦略的調整会議を設け、県産木材の利用促進のために、できるだけ公共事業の中でも活用していけるよう、今後とも取り組んでいきたい。

(保健福祉部)

「徳島県人にやさしいまちづくり条例」については、どちらかというと、バリアフリーの思想のもとに作られた条例であり、現時点でユニバーサルデザインの思想のもとでは、整合性のない部分もあるうかと思うので、必要があれば改正の方向で、前向きに検討させていただきたい。

(危機管理局)

「自主防災組織」は、災害が起こった場合に先ず頼りになる組織なので、是非この防災組織については充実する必要があると考えており、防災センターにおいてそのリーダーの養成にも努めている。

また、保健福祉部で作っている災害弱者のマニュアルの活用を市町村にお願いしているが、できるだけ庁内組織と連携をしながら、防災に対しての支援に努力してまいりたいと考えている。

(県土整備部)

耐震改修の件については、16戸と非常に少ない数字になっているが、16年9月からの事業ということもあり、16年度は3市町しか制度を立ち上げていなかったが、今年度は21の市町村が立ち上げているので、今後は伸びてくると思う。

また、建築士事務所協会にご協力をいただいて、耐震の相談窓口を設置しているの

で、この制度についても十分PR、周知していきたい。

(委員)

いわゆる個人情報保護法が非常に難しくなっており、災害弱者の方がどこに住んでいるのかという情報が、そう簡単にオープンにできなくなっている。

やはり、自主防災組織というのは、ご近所のそういう災害弱者の方も含めて状況を掴んでいるということが一番災害時に力を発揮するのではないかと思う。

(危機管理局)

市町村が個人情報をどう使うかというのは、基本的にはご本人の了解のもとに動かす必要があるので、十分に市町村の方々と連携しながら進めて参りたい。

(知事)

災害弱者の支援については、実際は各市町村の社会福祉協議会(社協)の皆さんにやっていただいております、日頃からの福祉活動の中で社協の中だけの地図として持っている。ただ、これを公表してしまうと個人情報保護の問題が出てくるので、実際に各市町村等の間では社協の皆さんと連携することで進めていっている。

(部会長)

アスベストの徳島県における状況について、何か情報があれば教えていただきたい。

(県民環境部)

県の方で協議会を作って、現在各部局で検討中であり、今後早急に情報開示して、県民の皆様が安心できるような措置をとっていきたいと考えている。

(委員)

人にやさしいまちづくり推進協議会の調査部会委員で、車椅子や高齢者、子供のトイレの表示等で調査をさせてもらって大変参考になったが、この2年間会議の開催がないが、社会が大きく変わっているので、そろそろ委員会もまた開いていただきたい。

資料4の 268「地域子育て支援センター」については、市町村合併が進んだことによって、お互いに子育て支援の気運が大きく刺激し合って、今まで動きにくかった県南、県西部で子育て支援頑張ろうという声があがってくるようになった。

いま正に民間の力の中で、 220「家庭いきいき支援者養成講座」は大変人気があり、受講者として数値は上がっているが、この終了した方たちが地域で活躍できる場が非常に少なく、どうもそれが繋がっていかない。

そういう意味では、あらゆる各市町村の方で、コーディネートしてくれる方がどんどん巣立っていかなければいけないと思う。

最後に、2年間「すきっぷ」を運営して思うことは、お母さんたちがすごく重い悩みが多すぎて、保健師さん、助産師さんからもとりあえず、「すきっぷ」に行っておらんと駆け込み寺のような状態で、私たちにのしかかるスタッフのスキルアップとそれの受け入れ体制は、いまアップアップ状態になってきている。

まず子育て支援センターの協定を作ってください、今ある保育所の支援センターの枠を越えて、地域の中にそういう相談ができる居場所づくりが早急に求められてい

るように思う。

(委員)

目標という考え方で、各論と総論がたくさん出ていたと思うが、県として県だけでできることと、県民私たちみんながやらないとできないことというのがあると思う。県だけでできることの「情報開示」とかは、達成度1でクリアしているが、県民と一緒に意識を変えるだとか、経済の活性化だとかという大きなことはやはり時間がかかるだろうし、行動計画としてはすぐに評価はできないものだろうと思う。

達成度3で目標があまり到達していないというのは、やり方が悪いか、テーマ自体、目標設定自体に問題があるかということも結構あると思う。

やはり、達成感のある、現実可能な目標設定をしていただきたいと思う。

あと、意識を変える分について言えば、もっと広告予算をとって周知徹底の部分にもっとお金を、予算をたくさん取っていただきたい。

そうすれば、この事業の中でも私たちの知らない事がいっぱいあったので、みんなもっと協力できるし、一緒にやれることがたくさんあるように思う。

5 事務局説明

審議会部会の会議録の公表については、部会長と協議の上、公開する。

9月2日開催予定の審議会総会において、正・副部会長さんから本日の審議内容の報告をお願いしたい。

6 閉会